

学友会ニュース

No.275

発行日：令和7年11月25日
発行：芦屋川カレッジ学友会
<https://ac-gakuyukai.com>



12月講演会

一般公開



～アートと芸術の東西～

12.8(月)

13時30分開場 14時開演

ルナ・ホール



講師 みやした きくろう 宮下規久朗氏

神戸大学大学院人文学研究
科教授・放送大学客員教授



講師プロフィール

1963 年名古屋市生まれ。東京大学文学部美術史学科卒業、同大学院修了。兵庫県立近代美術館学芸員等を経て 1995 年より神戸大学文学部助教授、2013 年より現職。『カラヴァッジョー聖性とヴィジョン』（名古屋大学出版会）でサントリー学芸賞受賞。他の著書に、『食べる西洋美術史』、『ウォーホルの芸術』（以上、光文社新書）、『モチーフで読む美術史』『しぐさで読む美術史』（以上、ちくま文庫）、『ヴェネツィア』（岩波新書）、『聖と俗』（岩波書店）、『そのとき、西洋では』（小学館）、『聖母の美術全史』（ちくま新書）、『バロック美術』（中公新書）、『日本の裸体芸術』（ちくま学芸文庫）など多数。2024 年より放送大学で「西洋の美学・美術史」を担当。

学友会新年を祝う会

2026.1.15(木)

14時開演 市民センター
多目的ホールほか

令和2年以来、久しぶりの懇親会です。美味しいお酒で新年をお祝いしましょう。アンジェロ・シンガーズ芦屋によるコーラスやお楽しみ抽選会があります。



自由投稿

祖父の灯 39期 得田 従子

さあ、一息入れる時は、まず、抹茶を頂く。いつも手にするのは「稚拙な餅つき兎・道源」と名の入った灰釉茶碗。明治二十一年生れ、祖父・源蔵自作の米寿祝いの品である。触れる度、走馬燈のように懐かしさが駆け巡る。実に魅力のある人だった。

初孫の私は片時も離れず側にいた。仏間での読経、妙心寺への参禅、難解な『碧巖録』（へきがんろく）の提唱、何も解らず辛抱強く座っていたものだ。帰宅がてら「内緒」と笑いながら、たまに今程有名でなかった料亭『菊乃井』や『たん熊』に連れて行ってくれた。

一番鮮明な記憶はシベリア抑留者の出迎えである。二条駅、京都駅に何度か旗を持って出かけ、目が合えば深いお辞儀をするように注意された。時折、その方達が訪ねてこられたが、抑留体験は誰も問わず語られず、緊張感漂う佇まいに子供心にもその過酷さを感じ取ったものだ。

友人は、私の特性を鈍な協調性と言う。その人の言葉・態度の背景を感じ取り、和するまで一呼吸ずれる。祖父との密な交流の中で育まれたものだ。それは、時には力となり、刃となり私の人生を操ってきた。が、今こうして家族にもカレッジ仲間にも恵まれ目前に傘寿を迎えようとしている。やはり、究極の「爺々馬鹿」のお陰である。

今日も掌で包み一服。唯々感謝である。



社会貢献活動報告

秋の喜楽苑花壇の植え替えが行われました。

10月18日（土）28名の有志による喜楽苑花壇植え替えが行われました。連日の暑さで秋の花を集めるのも大変な状況でしたが、何とか無事綺麗な花壇を作ることが出来ました。ありがとうございました。今回は写真で様子をご覧ください。

（世話人 28期 野村 克彦記）



学友会秋の美術展報告

11月6日～10日まで市民センターにて第23回学友会秋の美術展が開催されました。多くの方々が訪れ成功裏に閉幕しました。今回は高島峻輔芦屋市長が書を出展され、8日には展示場を訪れて仲間の力作を熱心に鑑賞されていました。また、新たな試みとしてアンケートによる人気投票を行いました。出展数は76点、期間中延べ428人の来場者を迎えました。

（担当 企画G）



学友会親睦ゴルフ大会報告

10月22日、ロータリーG.C.にて第10回親睦ゴルフ大会を開催。予報は過去10年で初めて順調に推移したが、万々歳で迎えし当日は北の風時折小雨模様の厳しい天気。天の裁きは厳しい。その結果、優勝は幹事萩野勇（27期）、2位は伊賀賢二さん（22期）、3位は中嶋知恵子さん（30期）でした。

（実行委員長 萩野 勇記）

